

資 料

2020 年度事業計画

2020 年 4 月 1 日

公益財団法人日本セーリング連盟

2020年度 JSAF 方針（JSAF ビジョンに基づいた）

今年度は、TOKYO2020 が開催される象徴的な年である。

JSAF は、その追い風を活かし、加盟する団体が発展して、会員がセーリングの素晴らしさを安心して享受できるための環境構築の支援および、情報展開を推進する。

そのために、JSAF が設定した Vision である「もっと身近になる」「関わり続ける」「もっと強くなる」の3つを実現すべく、長期目標に向けた具体的活動の第1歩を切る。

1. もっと身近になる（Easy Access）

(1) 一般の認知・関心の向上

- a. マスコミへの積極的情報提供によるメディア露出促進
- b. SNS 等を活用した情報の Push 配信
- c. IT 機器を駆使した新たなレースフォーマットなどの検討

(2) 気軽に始められるモデルづくり

- a. 体験セーリングのロールモデル構築
- b. 海洋関連イベントへの積極的参加
- c. e-Sailing の普及促進

(3) ファン拡大を通じた JSAF 会員数増加

- a. JSAF 既存会員増加のための各種施策の実施
- b. セーリングファンの開拓のためのエコシステムの構築
- c. 会員モデルの再構築
- d. 会員管理システムのサービス向上

2. 関わり続ける（Open Community）

(1) より健全なセーリング文化の醸成

- a. ガバナンスの強化、社会規範やコンプライアンスの遵守
 - ①スポーツ・インテグリティの向上
 - ②情報システムのセキュリティ対策
 - ③アンチ・ドーピング（AD）活動の推進
- b. セーリング・スポーツに関わる国際人の養成
- c. セーフティ・セーリングの推進
 - ①安全備品（キルコード/桜マーク/など）の活用促進
 - ②事故事例とその対策の共有による事前予防
 - ③初期救急対応の重要性の訴求

(2) 海洋教育やマリンスポーツと連携した社会貢献

- a. シーマンシップを根付かせるジュニア・ユース教育の強化
- b. 地域社会との共生を目指した海洋環境保全キャンペーン等の推進

(3) 普及や強化を担う所属団体の支援

- a. 国際ルールの国内における維持及び管理
- b. JSAF 主催、および公認/後援大会の確実なる成功
 - ① レース・オフィシャルズの養成による大会の更なる質向上
 - ② 選手と共に成長し続ける指導者の育成
- c. セーリング・スポーツを支える委員会情報発信の活発化
- d. 男女や障がいの有無に拘わらず、ジュニアからグランド・シニアまで継続したセーリング活動の定着促進
- e. セーリング・スポーツを支えるサポート企業・団体・会員の開拓

3. もっと強くなる (High Performance)

(1) ジュニア世代からの連続性のある強化

- a. ジュニア/ユース・セーラーの活動への幅広い支援強化
- b. 成長を支えるスタッフの育成強化

(2) 世界トップレベルの選手を輩出し続ける

- a. ナショナルチーム（選手・コーチ・スタッフ）の更なる強化によるメダル獲得
- b. オリンピック、ワールドカップシリーズ大会の成功
- c. 2024 に向けた活動方針の策定
- d. 国際組織（World Sailing/ASAF 等）との連携強化による情報収集と JSAF 地位向上

(3) 選手を知り、応援したくなる環境づくり

- a. オリンピック感謝イベントの開催
- b. 2024 以降を目指す選手の紹介とアピール
- c. 選手ブログの制作
- d. 「日の丸セーラーズ」応援グッズの展開

【総務・広報グループ】

総務委員会（委員長：安藤 淳）

事業計画 1

【事業名：公益財団法人としての組織運営への対応】

【事業の狙い】

・公益財団法人として相応しい主要会議体の運営と、それを実行する運営体制の整備・強化。

【具体的活動内容】

- (1) 中央競技団体としての更なる自律・自立を目指し、将来方向（ガバナンス強化、組織・財務基盤の強化、運営の適正・合理性の確立、加盟・特別加盟団体との連携強化）を見据えた諸規程・基準の継続的見直しと、運用面での適正な実施を関係委員会と連携して行う。
- (2) スポーツ・インテグリティ、ガバナンス向上、ジェンダー・イコール、LGBT 対応等の諸課題に対する研修事業の企画立案（研修内容、研修対象の選定）及び実施を関連委員会と連携して行う。

事業計画 2

【事業名：会員管理新システム運用を通じた加盟・特別加盟団体・会員向けサービスの継続的向上】

【事業の狙い】

・JSAF 財政健全化、会員情報の適切管理。

【具体的活動内容】

- (1) 年会費決裁代行への原則移行、カード会員証の原則廃止について、加盟・特別加盟団体の要望を踏まえて適切に進める。
- (2) 会員管理新システム稼働後の運用状況をモニタリングし、会員、加盟（特別加盟）団体に対する更なるサービスの質的量的向上を実現する。
- (3) JSAF が管理する情報システム（ホームページ、会員管理システム）のサイバーセキュリティ上の脆弱性を検証し、必要な対策を講ずる。（広報委員会連携）

事業計画 3

【事業名：JSAF 公認・後援（加盟・特別加盟団体主催）行事における適正運営の継続的実施】

【事業の狙い】

・安全管理の対策の徹底を目的として、事故情報の JSAF 内共有をはかる。

【具体的活動内容】

- (1) JSAF が公認・後援し加盟（特別加盟）団体が主催するレース等の行事（日本開催の世界選手権を含む）の実施に対して、安全管理対策の徹底（事故報告体制構築）を関連委員会とともに進める。
- (2) 同上行事における、主催者保険の付与の徹底を継続して推進する。

事業計画 4

【事業名：JSAF 事務局業務の効率化の推進】

【事業の狙い】

・JSAF 財政健全化及び JSAF 加盟団体、会員向けサービスの向上。

【具体的活動内容】

- (1) IT 機器を含めた事務機器の効率的活用を検討し、JSAF 事務局業務の効率化と組織内コミュニケーション能力の向上を図る。

(2) JSAF 運営資料のデータベース化を促進し、ペーパーレス化及び業務内容の質的向上を実現する。

事業計画 5

【事業名：JSAF 組織活性化へ向けた取り組みの推進】

【事業の狙い】

JSAF 組織活性化及び財政健全化。

【具体的活動内容】

- (1) 加盟・特別加盟団体や各委員会との連携を強化しながら、定期表彰における規程や基準の見直し、新規施策の検討を進めるとともに、計画的な実施に努める。
- (2) 加盟団体/特別加盟団体と一体になったビジョン/中長期計画の策定へ参画する。
- (3) 2020 東京オリンピック・パラリンピック終了以降を視野に入れ、財政委員会他関係委員会との更なる連携により、JSAF 運営体制の強化を図る。

財政委員会 （委員長：松田一隆）

事業計画 1

【事業名：適切な予算管理と迅速な会計処理の実現】

【事業の狙い】

- ・オリンピック開催年度であることに加え、JSAF ビジョン各施策着手により新たに生じる支出を、適切に収入範囲内に収め、健全な経理基盤を維持する。
- ・事務局の協力も仰ぎながら、一層の会計処理の迅速性と、汎用性の実現を図る。

【具体的活動内容】

- (1) 期初予算の策定および期中管理
 - a. 委員会毎に統制の取れた予算組みを維持
 - b. 中長期 JSAF 方針に則った予算配分の実現
- (2) 会計処理の負担分散およびローテーションの検討
 - a. マニュアル策定、ジョブローテーション等を通じて、会計業務の汎用化を検討するとともに、負担分散により会計締めの前倒しに繋げる

事業計画 2

【事業名：セーリング・スポーツを支える財政基盤強化】

【事業の狙い】

- ・アフター2020 や長期ビジョンも踏まえ、セーリング・スポーツ隆盛に必要な財政基盤の強化を、各委員会とも協働のうえ検討する。
- ・公益財団法人の特性を活かした、成長資金調達手段の検討
- ・経常的に発生する、年度越え資金調達方法の確立

【具体的活動内容】

- (1) 財政基盤の強化に向けた、組織横断的なディスカッション機会の検討
- (2) 成長資金調達に関する、税理士等への相談
- (3) 年度越え資金調達に関する正確な見積もりと、金融機関への相談

事業開発委員会（委員長：安藤 正雄）

事業計画 1

【収益事業】

【事業の狙い】

- ・効率良い商品制作、販売、在庫管理をはかる。

【具体的活動について】

- (1) 事務局移転後、商品保管倉庫がないため、JSAF ロググッズは在庫が残らないよう、一括販売のための製作として、受注に努める。現在、一般企業ロゴと JSAF ロゴとのコラボ商品制作を推進して継続的な卸販売の実現に向けて進めている。
- (2) 会員向けの公認ロググッズ、エンブレム、ネクタイ、スカーフタイ、ピンズ（三角旗・四角旗）等の販売も新規入会会員向けにはセット割安販売の企画推進を考案中。

事業計画 2

【通信販売事業】

【事業の狙い】

- ・事業計画 1 に準じ、JSAF 公認ロググッズを除き JSAF ショップのホームページを立上げ、一般通販サイトのように支払いも円滑に済ませるようクレジット払いも含め、会員及び一般セーリング愛好者、海に携わる方々にご利用頂けるよう JSAF が推薦するマリンデザイン商品等の開発を進める。経費の問題もありますので、企業協力もあれば検討する。

事業計画 3

【海洋環境保全の商品開発事業】

【事業の狙い】

- ・海プロの提供配布商品製作に数年携わらせて頂きました。これらの商品制作には、JSAF の「残したいのはきれいな海」そして安全安心を願うことにあります。外洋の日本一周、寄書き幕等の製作にも携わっておりましたので、商品企画を通し、JSAF の環境保全への願いを商品化するべく、皆様のアイデアをお待ちしています。

・その他計画 【不動産在庫のムダ】 保管・受注発送を業者委託する方向で検討していましたが、経費が嵩む為、現状売上高では損失が発生してしまうので、更に慎重に検討します。よって不動産在庫の保管料支払いより処分価格帯にて催事利用して頂きたい。

【マリン業界・サポーターとの連携】 商品制作企画にも、業界との共栄共存を図るべき交流を築くことを願います。ヨットハーバー、マリーナ及び海の駅等に JSAF 会員募集の広報と併せて 会員特典について研究して参ります。

※当委員会のメンバーも高齢化が進み、本人達も入院、手術、通院等で思うよう 活動に参加出来ずになります。また家族介護に当たって帰省している方も いられます。若手委員の増員に、皆様のご支援・ご協力の程、何卒、宜しく お願い申し上げます。

広報委員会（委員長：柳澤康信）

事業計画 1

【事業名：J-SAILING の刊行】

【事業の狙い】

- ・ステークホルダーへのサービス強化を目的とする。

【具体的活動内容】

- ・2020 年度の選手競技報告を中心に、JSAF 社会活動への取り組み、各委員会の活動報告などをまとめたイヤーブックを 2020 年末に刊行。会員、関係者に配布する。
- ・JSAF 会員に対してはイヤーブックを通じ、JSAF への理解深耕を助成する。
- ・JSAF スポンサーに対しては冊子紙面を広告スペースとして提供し、関係強化を図る。

事業計画 2

【事業名：JSAF ホームページ管理】

【事業の狙い】

- ・会員・関係者のみならず一般に対し JSAF 活動の理解を促進し、またセーリング競技の理解啓蒙をはかる。

【具体的活動内容】

- ・NT 選手競技活動、JSAF 事業・各委員会の活動をタイムリーに情報提供する。
- ・各委員会、JSAF メインサーバー利用中の加盟団体のコンテンツ更新やサイト構築のサポートを行う。
- ・事務局、総務委員会とも協業しセキュリティ強化対策を行うとともに、JSAF 役員、メインサーバー利用中の加盟団体担当者も含めセキュリティに対するリテラシーの向上も図る。

事業計画 3

【事業名：オリンピック強化委員会の情報発信管理】

【事業の狙い】

- ・セーリング競技の認知向上を目的として、オリンピック強化委員会とも協業しながらタイムリーな情報提供をはかる。

【具体的活動内容】

- ・マスコミ・プレス対象にしたリリースの制作・配信、また選手・競技理解促進を図るプレスデイを実施する。
- ・会員、一般むけにはホームページで情報提供をはかる。

事業計画 4

【事業名：取材活動】

【事業の狙い】

- ・セーリング競技の認知向上を目的として、オリンピック強化委員会とも協業しながら魅力的なコンテンツ提供をはかる。

【具体的活動内容】

- ・ディンギー・キールボートの主要大会にカメラマン・記者を派遣し、ホームページやリリースを通じて発信する。

環境委員会（委員長：芝田 崇行）

レディース委員会（委員長：富田 三和子）

事業計画 1

【事業名：チャイルドルーム開設】

【事業の狙い】

・未就学児の子どもを持つ女性選手・役員・指導者が、大会に安心して参加できるようにすることを目的として、チャイルドルームを開設する。

【具体的活動内容】

・ワールドカップ江の島大会・オリンピック・三重リハーサル国体・鹿児島国体でチャイルドルームを開設する。

・チャイルドルームの設置場所と保育士を、早く確保する。

・国体やリハーサル国体での実施に向けては、国体委員会で事前に詳細を提案し、地元の実行委員会と連携して行う。

事業計画 2

【事業名：第3回レディース委員会主催情報交換会】

【事業の狙い】

・女性が、生涯セーリングに親しむことができるための具体的な方策を話し合うことを目的として、各団体の意思疎通をはかる。

【具体的活動内容】

・加盟団体・特別加盟団体の女性代表者を対象にした情報交換会の開催を、11月を目途に実施する。

・参加希望者向けの案内を、9月までに作成し配布する。

その他事業計画

1 オリンピック壮行会実行委員会

・オリンピック壮行会の開催に向けて、総務・広報委員会・事務局等と連携し準備と運営を行う。

2 新年会実行委員会

・JSAF 新年会の開催に向けて、総務・広報委員会・事務局等と連携し準備と運営を行う。

3 ジャパンインターナショナルボートショーの準備・運営

・参加委員会と連携して準備・運営を行う。

4 対外活動

・JOC 主催の女性スポーツ会議、フォーラム等に積極的に出席し、他のスポーツ競技団体との情報交換を行う。

アスリート委員会（委員長：関 一人）

事業計画 1

1. 選手（プレーヤー）サイドの意見が反映できるような環境作り
 - ・ナショナルチーム選手代表者の当委員会への登用
 - ・国民体育大会、高校総体にて現場の意見を調査、分析し、各委員会へ発信
2. IOC へのセーリング競技存続に向けた取り組み
 - ・他委員会と連携し、日本としてアジア諸国、WS と連携した地位向上活動（多国、地域に根差したセーリング普及）
3. JOC へのセーリング競技の知名度、競技同士の連携強化
 - ・JOC アスリート委員会への参画
 - ・オリンピズムの浸透を目指した啓蒙活動
4. 2020 年東京オリンピック開催に向けた選手の地位向上およびセーリング競技の啓蒙
 - ・江ノ島開催に向け、選手サイドの考え、使いやすさ、海外選手の要望などのフィードバックを行う。
 - ・セーリング競技の知名度の低さからくる選手への影響を最小限にするべく、啓蒙活動への積極的な参画、他委員会との連携を図り、具体的活動の推進

海 その愛基金 海洋環境クリーンプロジェクト推進委員会（委員長：加山雄三）

事業計画 1 <1(2)b, 2(2)ab>

【事業名：(1)海洋環境保全の啓蒙】

【事業の狙い】

- ・「海 その愛基金 海洋環境クリーンキャンペーン」の参加者に次の3つの場を提供し、海洋環境保全と、海洋スポーツ安全の意識高揚を図る。①海を再生する、②海を知る、③海を体験する
- 2020 年度も初年度に引き続き、汚染の実情をセーリング関係者以外にも広く訴求する場を設け、協業できる団体や個人を募集する。

【具体的活動内容】

- ① 海を再生する
 - (1) ビーチクリーン活動への支援
 - (2) 音楽フェスを通じた海洋環境クリーン訴求
 - (3) 海洋環境保全手法のアイデア募集と専門機関における実現性の確認
 - (4) 海洋環境保全年間表彰制度の検討
- ② 海を知る
 - (1) 海洋環境クリーンプロジェクト推進ワークショップの準備および実施
 - (2) 外洋艇による日本沿岸の海水摂取とマイクロプラスチック含有量調査支援
 - (3) 小中学校、PTA への海洋環境クリーン訪問授業の実施
 - (4) ジュニアやユース世代でセーリングを開始する子供達、および父兄に対する海洋環境クリーン教育の実施
- ③ 海を体験する

- (1) 海洋スポーツに関心を持つための機材道具の制作
- (2) 海洋スポーツに関心を持つためのイベントの実施

【競技推進グループ】

ルール委員会（委員長：増田開）

事業計画 1

【事業名：ルールブック 2021-2024 の発行】

【事業の狙い】

- ・『関わり続ける』 セーリング競技の根幹であるセーリング競技規則（RRS）の 2021 年改定版を日本語訳して国内セーラーに提供する。
- ・『もっと身近になる』 会員の利便性の向上とルールの普及を目的として、IT 機器を利用した新たな発行形態を開発する。

【具体的活動内容】

- ・ World Sailing からの公開の後直ちに改定 RRS を日本語訳してルールブック 2021- 2024 として発行する。
- ・ 加盟団体・特別加盟団体からの一括購入の事前予約を受け付け、2020 年 11 月中に発送する。
- ・ 新たな発行形態としてスマートフォン用アプリ版を開発し、2021 年 1 月より販売開始する。

事業計画 2

【事業名：ルール関連資料の翻訳・発行】

【事業の狙い】

- ・『関わり続ける』 セーリング競技の根幹である競技規則（World Sailing 規程集の一部）、規則解釈等を日本語訳して、国内セーラーに提供する。

【具体的活動内容】

- ・ 競技規則である RRS と World Sailing 規程の一部、アデンダム Q などの試行規則、競技規則の公式解釈であるケースブック、コールブックと規則 42 解釈、Q&A とラピッドレスポンスコールなど、World Sailing の発行するルール関連資料の追加・修正を都度、日本語訳して WEB で展開する。

事業計画 3

【事業名：国際ジャッジ・アンパイア（IJ/IU）の育成】

【事業の狙い】

- ・『関わり続ける』 世界に通用するジャッジ/アンパイアを発掘育成する。
- ・『もっと強くなる』 World Sailing との連携強化による JSAF の情報収集力の向上を図る。
- ・『もっと強くなる』 海外の大会の成功に貢献する共に、特にアジア諸国など海外のジャッジ/アンパイアの育成にも貢献することで、JSAF としての世界での地位向上を図る。

【具体的活動内容】

- ・ 日本人 IJ/IU を継続的に輩出するため、国内 IJ/IU 候補者に海外レース等を経験させるための機会獲得支援と渡航費補助を行う。
- ・ アジア諸国の IJ/IU 候補者の JSAF 主催国際大会への来日支援のため渡航費補助を行う。

・JSAF から World Sailing に推薦する IJ/IU 候補推薦者選定のための IJ/IU 候補推薦委員会を 7 月に開催する。

事業計画 4

【事業名：ナショナル A 級ジャッジ/アンパイア講習会の開催】

【事業の狙い】

・『関わり続ける』 国内レースの質の維持・向上を目的として、ナショナルジャッジ・アンパイアを養成する。

【具体的活動内容】

- ・新規 NJ-A/NU 認定講習会をそれぞれ 2~3 回開催する。
- ・NJ-A を対象にした資格更新講習会を全国 10 箇所程度で 12 月~3 月に開催する（翌年度に 1-2 回の追加開催も計画する）。
- ・NU を対象にした資格更新講習会は、座学講習（2 月~翌年度 6 月、4~6 回、うち 2020 年度は 2 回）と、海上実技研修は指定大会（3 月~翌年度 9 月、4~6 回、うち 2020 年度は 2 回）において実施する。
- ・国内でも普及してきたアンパイア制フリートレースを対象としたアンパイア・クリニックを 1~3 回開催する。具体的には、例年通り 12 月に和歌山で開催するほか、アンパイア制レースの行われる大会の機会を利用して追加で 1~2 回の開催を検討する。
- ・例年 1~3 月に開催しているジャッジ・クリニックで提供している内容については、NJ-A 資格更新講習会（事業計画 4）で併せて提供することで全 NJ-A に展開するため、2020 年度はジャッジ・クリニック単独での開催は行わない。

事業計画 5

【事業名：ナショナル B 級ジャッジ養成支援】

【事業の狙い】

・『関わり続ける』 国内レースの質の維持・向上を目的として、初級ジャッジを養成する加盟団体・特別加盟団体を支援する。

【具体的活動内容】

- ・新規 NJ-B 認定講習会と認定試験を実施する加盟団体・特別加盟団体に、試験問題と講習用補助資料を提供する。
- ・改定 RRS に合わせた、NJ-B 更新講習会および新規認定講習会のための講習補助資料と試験問題を作成し、2020 年 1 月から提供を開始する。
- ・都度、認定証発行やデータベース入力など NJ-B 認定管理業務を行う。

事業計画 6

【事業名：ジャッジ・アンパイア関連書の翻訳・発行】

【事業の狙い】

・『関わり続ける』 国内レースの質の維持・向上を目的とし、国内ジャッジ/アンパイアのレベル維持・向上を図るため、World Sailing 発行のジャッジ/アンパイア向けマニュアル等を日本語訳して提供する。

【具体的活動内容】

- ・World Sailing の発行するジャッジ・マニュアルを都度、日本語訳して発行する。
- ・新たに発行されたフリートレース・アンパイア・マニュアルの日本語要約版を作成して発行する。

事業計画 7

【事業名：JSAF 主催大会等へのジャッジ・アンパイア派遣】

【事業の狙い】

・『関わり続ける』 JSAF 主催大会等の成功を目的とし、ジャッジ/アンパイアを派遣する。開催地等のジャッジ/アンパイアとの交流により、国内ジャッジ/アンパイアの養成と能力向上も図る。

【具体的活動内容】

・国体、国体リハーサル大会、ナショナルチーム選考レースを始めとする JSAF 主催大会等へジャッジ/アンパイアを都度選考して派遣する。

事業計画 8

【事業名：指導者・選手向けルール講習会の開催】

【事業の狙い】

・『関わり続ける』 特に初級選手やその指導者へのスポーツマンシップの普及と、スポーツマンシップの根幹であるルール理解を促進する。

・『もっと身近になる』 特に初級選手やその指導者に、ルールに関連したゲーム性の観点からセーリング競技の魅力を伝える。

【具体的活動内容】

・1月～5月に全国20カ所程度（うち2020年度内は15箇所程度）で、指導者・選手向けルール講習会を開催する。

事業計画 9

【事業名：アンパイア制レースの普及】

【事業の狙い】

・『もっと強くなる』 世界のアンパイア制レース拡大の潮流を捉え将来にわたって国内でのセーリング・スポーツを振興するため、国内でのアンパイア制レースの普及、競技力向上と、アンパイア養成のための組織強化を目的とし、大会主催団体となりうる加盟団体・特別加盟団体と一体となって中長期的に推進するためのビジョン共有と連携体制構築を図る。

【具体的活動内容】

・加盟団体・特別加盟団体への働きかけによりメダルレースを含むアンパイア制フリートレースやチームレースの計画を促すと共に、アンパイア制大会実施のためのノウハウの提供やアンパイアの紹介などの支援を行う。

・新たにアンパイア制レース実施大会の継続的開催を計画する加盟団体・特別加盟団体を対象に、チーフアンパイアを派遣して派遣費用を補助する。

事業計画 10

【事業名：委員会活動へのTV会議の導入】

【事業の狙い】

・『もっと強くなる』 JSAF の持続可能性の向上を目的とし、地方会員、中でも特に若手会員・女性会員の委員会への新規参画の大きな障害となっている委員会出席のための経済的・時間的負担の軽減を図る。

【具体的活動内容】

・委員のPCベースで実施可能なTV会議用機器を導入し、例年3回開催している委員会（通常2回、臨

時1回)に加えて、全国3~4会場程度(出席者合計30~40名程度)を繋ぐTV会議による委員会(臨時)を1回追加で試行する。

・次年度以降のTV会議による委員会の開催回数拡大に向けて、課題を洗い出し、会場の数(5~6会場を想定している)の最適化とそのため追加機材の導入を検討すると共に、他の委員会や委員長会議等での利用の検討に必要な情報提供を行う。

その他事業計画

(各委員会固有または定例の計画について記載ください。)

ルール委員会の開催

目的：ルール委員会活動の実施

現状：事業を遂行するために年2回の通常委員会(各1日)開催だけでは不十分なため、例年1回の臨時委員会(2日間)を追加で開催している。

実施内容：RRS改定(事業計画1)に伴う課題増に対応するために、臨時委員会1回(1日、事業計画10によるTV会議)を追加し、合計4回(計5日間)実施する。

実施時期：通常委員会：6月、12月、臨時委員会：3月(2日間)、9月(事業計画10によるTV会議)

ルール・ジャッジ・アンパイア情報の展開

目的：ルール・ジャッジ・アンパイアに関するJSAFとしての会員サービスの実施

現状：ルール委員会WEB、加盟団体/特別加盟団体の代表者のメーリングリスト、及び、A級ジャッジのメーリングリストで情報展開している。

実施内容：メーリングリストの更新管理。WEB、メーリングリストでの情報展開。

実施時期：都度

指導者資格更新のための義務研修の登録業務

目的：日本スポーツ協会の認定する指導者資格を有するJSAF会員の、同資格の更新条件であるJSAF主催講習会等の受講状況を適切に日本スポーツ協会データベースに登録する。

現状：ルール委員会の実施している講習会では、NJ-A/NJ-B/NUの認定講習会、ジャッジ/アンパイア・クリニック、および、指導者・選手向けルール講習が義務研修対象となっている。

実施内容：各講習会の公示時点でのデータベース登録、講習会実施後の受講者情報のデータベース入力、対象受講者等からの照会・問合せ等への対応

実施時期：都度

レースマネジメント委員会 (委員長：大庭秀夫)

事業計画1

【事業名：レースオフィサーセミナー】

【事業の狙い】

- ・レースオフィシャルズの資格認定を通して、レースマネジメント・レース運営のスキル維持・向上のための情報展開、国内大会の安全確保と質の維持・向上を図る。

【具体的活動内容】

- ・ AROを対象にしたNRO認定セミナーを1回実施する（2月 東京）。
- ・ NROを補佐し、水域レベルのレースを主体的に運営し、将来のNRO候補を養成するため、AROセミナーを全国5会場で実施する。
- ・ レース運営初級者向けのLRO講習を全国5会場で実施。

事業計画2

【事業名：レースマネジメントクリニック】

【事業の狙い】

- ・ クリニック（講習）の開催をとおして、レースオフィシャルズのスキル維持・向上のための情報展開、国内大会の安全確保と質の維持・向上を図る。

【具体的活動内容】

- ・ レースオフィシャルズを対象にしたレースマネジメントクリニックを10会場で開催する。（各水域1回、外洋1回）なお、NROは資格維持のために4年に一回は受講しなければならないことが規程で定められている。

事業計画3

【事業名：レースオフィサー更新講習】

【事業の狙い】

- ・ 4年に一度のルール更新年にあたり、更新講習会の開催をとおして、ルール更新の内容を周知することにより、レースオフィシャルズのスキル維持・向上のための情報展開、国内大会の安全確保と質の維持・向上を図る。

【具体的活動内容】

- ・ レースオフィシャルズを対象にした資格更新講習を開催と共に講習準備を実施する。
- ・ 更新講習のため、ルールの翻訳・講習スライドの作成を行う。
メールによる分散作業の後、最終編集会議を行う（11月 東京）
- ・ NRO更新講習インストラクター打合会を実施。（11月 東京）
- ・ NRO更新講習 全国9水域、外洋系1会場で開催。（170人）
- ・ ARO及びLRO更新講習
全国9水域で各1～3回。計20会場で実施。（650人）

事業計画4

【事業名：国体進捗事業】

【事業の狙い】

- ・ 国体開催について円滑な準備態勢の構築を図る。

【具体的活動内容】

- ・ 国体委員会の研修会にレースマネジメント委員会（国体小委員会）として参加し、開催に向けての準備調整について情報交換をする。
- ・ また、開催地の特性を考慮したレース公示、帆走指示書の作成等に協力し、大会を成功に導く。
- ・ 各水域のレース委員を国体に派遣することで、全国のレース運営のレベルアップを図る

事業計画5

【事業名：外洋レース/大型艇レースの全国統一運用の普及】

【事業の狙い】

- ・外洋レース/大型艇レースの全国統一運用を普及させるために、外洋系加盟団体、特別加盟団体にレース/大会運営に関する情報提供、共有を行う。また、外洋系加盟団体、特別加盟団体とコミュニケーションを図り、各水域活動の実態調査から課題の抽出/共有を行い、大会/レース運営の全国統一運用に向けた活動を実施する。

【具体的活動内容】

- ・外洋合同委員会（2021年2月）の開催準備と会議運営ならびに、外洋系加盟団体、特別加盟団体とのコミュニケーションの創出
- ・RMM2019（外洋パート）の翻訳と公開
- ・情報発信媒体（HPなど）の整備
- ・日常連絡活動（IRC レースファイルなど）
- ・各水域活動の実態調査と課題の抽出
- ・その他、全国統一運用の普及に関する活動

事業計画 6

【事業名：外洋艇/大型艇の大会運営に活用可能な新技術の調査】

【事業の狙い】

- ・現在ならびに将来について、外洋レース/大型艇レースの安全・公平・公正なレース/大会運営に活用可能な技術の整理を行う。

【具体的活動内容】

- ・外洋レース/大型艇レースを安全に運営するための技術の調査（トラッキングシステム、無線など）
- ・外洋レース/大型艇レースで適切な文書（レース公示（NOR）、帆走指示書（SI））の作成をサポートする技術の調査
- ・その他、外洋レース/大型艇レースの大会運営に活用可能な技術の調査

事業計画 7

【事業名：環境に配慮した外洋艇/大型艇レースの実現に向けた調査】

【事業の狙い】

- ・外洋艇/大型艇レースの大会運営において、環境に配慮し、持続可能なセーリング環境を守るためにできることを調査する。

【具体的活動内容】

- ・World Sailing の指針の整理
- ・国内および海外の動向調査
- ・その他、環境に配慮した外洋艇/大型艇レースの大会運営のために有益な情報の調査

事業計画 8

【事業名：公認・後援する大会開催に関しての審査】

【事業の狙い】

- ・公認・後援等が規則に則り適正に行われているかを審査する。

【具体的活動内容】

- ・公認・後援等を申請する団体からの書類をディングー系・外洋系それぞれの担当者が審査を行う。

事業計画 9

【事業名：江の島レースマネジメントトレーニングプログラム】

【事業の狙い】

- ・2020 東京オリンピックが行われる相模湾の風・水深・潮流を体感し、様々な気象条件下でもマークや運営艇を確実に固定する技術と経験を身につける。

【具体的活動内容】

- ・2～3 日間の日程で計 12 回江の島にて海上トレーニングを実施する。

事業計画 10

【事業名：全国レースマネジメント委員会】

【事業の狙い】

- ・レースマネジメント委員会の事業実施に係る事項を協議する。
- ・各水域からの報告及び意見交換。

【具体的活動内容】

- ・年間 2 回、それぞれ 2 日間の会議を開催する。

ワンデザインクラス計測委員会（委員長：中村和哉）

事業計画 1

【事業名：規則管理】

【事業の狙い】

- ・WS から発行される ERS を翻訳し提供する

【具体的活動内容】

- ・ERS の翻訳
- ・ERS の更新

事業計画 2

【事業名：公式計測員管理】

【事業の狙い】

- ・公平で公正な計測を維持するための技術を管理し公式計測員を要請する

【具体的活動内容】

- ・ERS 及びクラス規則の講習会を実施する

事業計画 3

【事業名：IM 養成支援】

【事業の狙い】

- ・IM の養成と計測技術の向上を支援する

【具体的活動内容】

- ・WS の情報を翻訳し提供する
- ・国際レベルの計測技術を維持する

事業計画 4

【事業名：IHC 管理】

【事業の狙い】

- ・ IHC 制度の管理と運用を行う

【具体的活動内容】

- ・ セールメーカーでの IHC の運用を監査する
- ・ セールメーカーの要請に基づく IHC ステッカーの手配

事業計画 5

【事業名：国体計測】

【事業の狙い】

- ・ 国体等における大会計測の精度を管理し公平公正な計測を行う

【具体的活動内容】

- ・ 国体等の大会計測の実施を主催団体と調整し実施の支援を行う

その他事業計画

委員会基本活動

定例委員会の開催、および関係会議への出席、ホームページ掲載内容の管理

国際委員会（委員長：望月宣武）

事業計画 1

【事業名：国際機関のポスト獲得、国際会議への委員派遣】

【事業の狙い】

- ・ 国際社会における日本の地位向上をはかる。
- ・ 国際機関の意思決定において、情報を収集し、他国と協調・連携し、アジア及び日本の利益を反映させる。

【具体的活動内容】

- ・ WS (World Sailing) のミッドイヤー会議、年次会議及び臨時会議等に委員及び代表 (Delegate) を派遣する。
- ・ ASAF (アジアセーリング連盟) の年次総会及び臨時総会に委員及び代表を派遣する。
- ・ ASAF 臨時総会及び WS 年次会議において、2021-2024 年の役員及び委員の候補者を推薦し、ポストを獲得する。

事業計画 2

【事業名：JICA 民間連携を活用したパラオ共和国へのコーチ派遣】

【事業の狙い】

- ・ 国際社会における日本の地位向上をはかる。

【具体的活動内容】

- ・ JICA の民間連携を活用し、2020 年下半年期から 1 年間、常駐のコーチを派遣する。

事業計画 3

【事業名：セーリングワールドカップシリーズファイナル及び東京オリンピックの開催協力、海外チームのおもてなし事業】

【事業の狙い】

- ・ 国際社会における日本の地位向上をはかる。

【具体的活動内容】

- ・ 未定（委員会内で議論中）

その他事業計画

他の委員会と連携し、国際機関に派遣する候補者の掘り起こしを行う。

医事・科学委員会（委員長：山川雅之）

事業計画1

【事業名：アンチ・ドーピング（AD）活動の推進】

*アンチ・ドーピング小委員会が主体

【事業の狙い】

アンチ・ドーピングの指導・啓蒙

【具体的活動内容】

- ・ ドーピング検査に対する NA として参加
- ・ 選手、コーチ、監督、指導者へのアンチ・ドーピングの指導・啓蒙
- ・ スポーツファーマシストの育成
- ・ アウトリーチ活動の推進

事業計画2

【事業名：セーフティーセーリングの推進】

【事業の狙い】

選手の健康管理、外傷の対応

【具体的活動内】

- ・ 競技会における安全体制の指導、助言
- ・ 安全講習及び公認コーチ講習に講師の派遣
- ・ 選手の健康管理、外傷に対する相談への医師、歯科医師、薬剤師、管理栄養師、トレーナーによる対応
- ・ 海外派遣選手に対する医学的指導、および選手、コーチからの相談・要望に対するLINE、メールによる対応

事業計画3

【事業名：医事科学委員会活動の活発化】

【事業の狙い】

セーリングスポーツを支える他委員会、組織との医科学面での協力、連携

【具体的活動内】

- ・ 普及指導委員会、国体委員会、オリンピック強化委員会との連携

- ・東京オリンピック組織委員会、ワールドカップ実行委員会への医療協力
- ・ワールドセーリング医事委員会との連携（メディカル・インフォメーション）

その他の事業計画

- ・公認スポーツドクター、公認スポーツデンティスト、公認スポーツファーマシスト
公認スポーツ栄養師、公認トレーナー養成講習会受講のJ-SPOへの推薦および更新の手続き

ドーピング裁定委員会（委員長：棚橋善克）

1. ドーピング違反事案発生時、JADAと連携を取り合い、裁定を行う。
2. 医事委員会と連携し、アンチ・ドーピング思想の普及に努める。

e-Sailnig 委員会（委員長：尾形依子）

事業計画 1

【事業名：事業名：e-Sailnig プロモーション活動】

【事業の狙い】

- ・セーリングファン拡大を目的として、e-sailig 普及を図る。
- ・セーリングの活動から一度離れた経験者が再び活動する際に気軽に係われるツールとしての環境整備を図る

【具体的活動内容】

- ・リーフレットを作成し、プロモーション活動の際に配布する
- ・セーリング大会に合わせてプロモーションやデモンストレーションを実施する

事業計画 2

【事業名：事業名：e-Sailnig エキシビジョン開催】

【事業の狙い】

- ・セーリングを始めた方が、自宅等でルールや模擬レース体験を行い、次のセーリング機会までの学習を目的として、e-Sailnig 普及を図る

【具体的活動内容】

- ・4.5.6月の開催レース（PWA World Cup、北日本カップ、春インカレ等）で、セーリングを始めた新入生中心にルールやレース展開の学習を兼ね e-sailig プロモーション活動を行う
- ・国体、プレ国体、全日本OP選手権、420 全日本選手権等で幅広い年齢層に、シーズンオフや卒業後もセーリングに関わり続けるツールの一つとして e-Sailnig プロモーション活動を行う
- ・6月のワールドカップシリーズファイナルでエキシビジョンの開催

その他事業計画

（各委員会固有または定例の計画について記載ください。）

- ・他委員会との連携による e-Sailnig の普及検討

【普及強化推進グループ】

普及指導委員会（委員長：川北達也）

事業計画 1 指導者育成関連事業<2(1)a①, 2(1)c, 2(3)b②, 2(3)c>

【事業名：(1)指導者育成体系構築】<指導者規定管理>

【事業の狙い】

- ・現場の指導者が、スポーツ・インテグリティを向上させるような行動ができるように、JSAF 指導者の行動指針や行動規範を策定する。

【具体的活動内容】

- ④ JSAF 指導者の行動指針を 9 月理事会まで策定し、承認を受け、現場の指導者に展開する。
- ⑤ JSAF 指導者規程を 9 月理事会まで策定し、承認を受け、現場の指導者に展開する。

【事業名：(2)専門科目講習会の改定】<教材開発/展開>

【事業の狙い】

- ・JSP0 スポーツ指導者養成制度に合わせて、「JSAF 指導者育成体系」に基づく新カリキュラムに準拠した、コーチⅡ、コーチⅣの実施プログラムを策定する。
(コーチⅡ実施は 2020、コーチⅣ実施は 2021 年度より)

【具体的活動内容】

- ① コーチⅡの 4 日間(前後期)の専門科目講習会実施プログラムを 5 月末までに作成する。
- ② コーチⅣの 9 日間(前中後期)の専門科目講習会実施プログラムを 3 月末までに作成する。
- ③ 上記完成までの検討/調整会を計 3 回開催する。
- ④ 講習会に必要な機材を購入する。

【事業名：(3)次世代公認指導者の養成】<指導者講習会>

【事業の狙い】

- ・質の高い指導者を育成して加盟団体の組織活性化、およびプレイヤー育成に寄与する。

【具体的活動内容】

- ① 公認指導者養成講習会の募集、および専門科目の申請手続き、開催実施（JSP0 委託事業）
 - ・コーチⅡ前期を 11 月 24~25 日、後期を 11 月 28~29 日に実施する。
 - ・コーチⅢ前期を 12 月 11~13 日、後期を 1 月 29~31 日に実施する。
- ② 公認指導者養成講習会コーチⅢ共通科目への講師派遣<コーチデベロッパー有資格者 3 名>
 - ・JSP0 主催のコーチⅢ共通科目へ講師を派遣し、本連盟の指導者講習会の質の向上を図る。
- ③ コーチングスキルアップや、情報収集のために外部講習会やセミナーに年間 5 回程度参加する

【事業名：(4)公認指導者の継続的レベルアップ】

【事業の狙い】

- ・加盟団体の組織活性化、および公認指導者資格保有者の学びの継続とレベルアップに寄与する。

【具体的活動内容】

- ① 専門科目指導者講師研修会の開催(JSP0 助成事業)<指導者講習会>
 - ・国体期間中もしくは 10 月 17~18 日を予定として、策定したコーチⅡ専門科目実施プログラム、および教材の展開。

- ② 更新研修の受講促進<指導者管理>
 - ・指導者資格更新に必要な更新研修実施と加盟団体主催講習会の更新研修を認定する。
 - ・研修情報の周知受講者情報の確実な登録を実現する関連委員会との仕組みを運用する。
- ③ 指導者リストの整備<指導者管理>
 - ・更新まで1.5年以内の指導者資格保有者に対して、更新研修受講情報の提供を行う。
- ④ 公式サイト委員会ページの指導者への展開情報の掲載<教材開発/展開>
- ⑤ 公式サイト委員会ページでの指導者コミュニティの維持管理<指導者管理>
- ⑥ 上位団体から受けた事業の情報展開<情報展開>
 - ・スポン、JOC、JSP0、JADA、JSSA等から展開された事業案内をタイムリーに加盟する団体に展開（公式サイト/Push Mail）する。

事業計画2 安全推進事業<2(1)c①②③>

【事業名：(5)事故報告管理】<事故報告管理>

【事業の狙い】

- ・JSAF会員の安全に対する意識向上を図る。

【具体的活動内容】

- ① 実際に起こった事故やヒヤリ/ハット情報を収集し、その都度発生原因を明確にした情報を、加盟する団体に展開する。

【事業名：(6)安全備品の活用展開】<備品活用推進>

【事業の狙い】

- ・JSAF会員の安全に対する意識向上を図る。

【具体的活動内容】

- ① キルコード不装備による事故映像や指導者等が乗るラバーボートのキルコードの正しい使用方法載せたガイドブックと映像を作成し、公式サイト委員会ページで展開
- ② 備品管理

【事業名：(7)安全基準策定展開】<安全基準>

【事業の狙い】

- ・JSAF会員の安全に対する意識向上を図る

【具体的活動内容】

- ① 各地の練習海面の安全基準チェックリスト策定に向けたガイダンスを作成し、自由に加工できるチェックシートフォームと一緒に公式サイト委員会ページで展開

【事業名：(8)バッジテスト資格管理】<バッジ資格管理/検定員管理/検定員管理>

【事業の狙い】

乗艇者が安全を意識した活動ができるように、全国での活用を推進する。

【具体的活動内容】 都度実施

- ① 各団体が行ったバッジテスト講習会及び検定試験の実施状況と合格者リスト一覧を作成する。
- ② 検定登録料のJSAF納入金額（振込）と報告書の突合せを行い、金額の一致を図る。
- ③ 提出報告書のフォーム記載内容精度と標準フォーム使用率向上（90%以上）を進める。

- ④ 国体以外でバッジテスト資格を出艇条件にしている団体や運用内容を収集し、整理する。
- ⑤ 昨年度策定したバッジテスト検定員リストを今年度用にメンテナンスする。
- ⑥ バッジテスト検定員の資格要件を策定し、バッジテスト規定に追加する。
- ⑦ 不整備なバッジテスト規定を、11月までに現状に即した内容に改定し、理事会にて承認を得る。

事業計画3 セーリング普及事業<1(1)b,1(3)b,2(3)c>

【事業名：(9) Start Sailing 機会と価値の可視化】 <情報展開>

【事業の狙い】

- ・セーリングを知る・観る・体験できる機会を可視化し、いつ、どこにいけば体験できるのかが分かるようにする。

【具体的活動内容】

- ① セーリング始めるマップ／イベントカレンダーの作成
都道府県連、JODA等の協力を得て、全国のジュニアクラブ等の場所やアクセス方法、問い合わせ先が一覧できるセーリング始めるマップ、およびJSAF主催・共催のイベントや各地での試乗会等のカレンダーを作成する。
- ② 保護者がセーリングの価値を判るようなコンテンツの作成
保護者から見て、子供にセーリングを体験させると、どのような価値があるのか、子供は何を学べるのか、親はどのような負担があるのか、などが理解できるコンテンツを作成する。
- ③ 上記①・②の配信・配布（&SNS発信）
①・②をJSAFサイト上に掲載&エリアごとのマップ（紙・PDF）を作成し、イベント等での配信・配布を行えるようにする。（余力があれば、facebookなどのSNSでも発信する）

【事業名：(10) 加盟団体普及活動支援】 <加盟団体普及活動支援>

【事業の狙い】

- ・JSAFに加盟する団体が行うセーリング普及活動を支援し、各地のイベントの成功及び活動活性化を目指す。

【具体的活動内容】

- ① 「海と日本プロジェクト」展開
JSAFが主体となって企画申請と参加団体実施支援を行う。成果とメリットの可視化に注力し、参加希望団体を増やす
- ② 小中学校アプローチの標準化（モデル化）
富田常務理事実施の神奈川県事例をモデルとして、小中学校へのアプローチを標準化し、全国に展開できる準備を行う＝ヒト／モノ／カネ／プログラムの算段をつける。可能であれば、新規トライアルの自治体を見つけ出す。
- ③ 全国の成功事例の特定とモデルケース化
小中学生への普及の成功事例や、高校～大学～トップアスリートまでのパスウェイを実現しているクラブやエリアの事例をピックアップして、そのノウハウを共有できるようにする。

【事業名：(11) イベント企画・展開】 <イベント企画展開>

【事業の狙い】

- ・陸上で開催するイベントを行う事で、セーリング競技の認知度向上、およびファンの獲得、水辺イベ

ントへの誘導を実現する。

【具体的活動内容】

① ボートショーJSAF ブースの企画と実施

ボートショー2021JSAF ブースの企画と実施を行う。特に小中学生を主対象として、来場者のDBを作成し、セーリングイベントへの継続的案内を行うとともに、セーリング始めるマップや教育教材と連動することで競技人口拡大につながるかを検証する

② 陸上セーリングイベントの企画と機材準備【タイプ A/B】

2019年に豊洲で実施した陸上イベントを暫定的なモデルとしてその標準化と横展開の可能性を模索する＝ヒト／モノ／カネ／プログラムの算段をつける。特に、開催場所の見極め（海が近い／子どもが集まる／親の投資意欲・能力が高い）が重要になるため、豊洲以外の開催場所の検討を行いながら、漸進的な全国展開の可能性を模索する

【事業名：(12) 育成教材の企画・開発】〈育成教材開発〉

【事業の狙い】

・スタートアップから3年ほどをターゲットとして、セーリングを楽しみ、上達する喜びを感じやすくする

【具体的活動内容】

※レベルの目安としては、「インターハイ出場」が出来るものを目指し、本年は情報収集と協力者探し、内容の企画に取り組む＝「教材の目次」をアウトプットとする

① 選手用教材の企画

次の3つのレベルで教材を企画する

1)スタートアップ（楽しむ）、2)基礎技術（正しく知る）、3)レーシング

② 指導者用教材の企画

上記①を支える、指導者用の教材／指導方法を言語化する

事業計画 4 国際人養成事業<2(1)b, 2(3)d>

【事業名：(13) JOC国際人アカデミー派遣】〈JISLA〉

【事業の狙い】

・将来JOC/NFを代表しIOC、IF/AF等の国際スポーツ組織における役員や専門委員会委員、または国際競技大会のスポーツディレクター等として、その団体や組織の政策決定過程における活躍が期待できる者を育成する事を目的とし国際的な感覚を持ったNFの組織運営や指導体系との連携をはかる。

【具体的活動内容】

① アカデミーの募集要項をNFの加盟団体・各委員会代表者に2020年1月を目途に送付し、書類選考・面談を実施し、候補者の選定を行いJOCへ推薦する。

【事業名：(14) JOCナショナルコーチアカデミー派遣】〈コーチアカデミー〉

【事業の狙い】

・国際的競技水準を踏まえた強化・育成・普及ができるプロフェッショナルなコーチを育成・養成する。

【具体的活動内容】

② 日本スポーツ協会コーチIV修了者で実践経験のあるコーチを対象とし、普及指導委員会から推薦のあったコーチを選定しJOCに推薦する。開催時期は未定。

③ 募集要項が完成次第加盟団体及びホームページ等で公募する。

【事業名：(15) 女性普及拡大】〈女性普及〉

【事業の狙い】

・女性メンバー数の増加を目的としてレディース委員会との連携をはかる。

【具体的活動内容】

- ① レディース委員会で定めた目標値を基準に、JOC国際人・コーチアカデミー・普及指導委員会と相互の連携を通じて求められている国際標準を満たすべく普及活動を展開する。
- ② 女性指導者向けの情報を集めてホームページ等で紹介し、女性指導者の活動をサポートする。セーリングにおける女性指導者の活躍の状況を可視的に広げる。

【事業名：(16)セーリングを支える委員会活動の活性化促進】〈その他〉

【事業の狙い】

・他委員会や団体と協業することで、JSAF 実施事業の質的向上と委員会ノウハウ交流を目指す
また、JSAF の中長期計画の作成や事業実施に向けた活動を行う

【具体的活動内容】

- ① 他委員会との協業事業の拡大（セーリング普及/指導者育成/安全展開/環境保全）
- ② 中長期計画策定支援（ビジョン検討会/会員増強）
- ③ 普及指導委員会ミーティングの開催（年2回）

国体委員会（委員長：森 信和）

事業計画 1

【事業名：国体開催事業】

【事業の狙い】

・鹿児島国体セーリング競技会並びに三重国体セーリング競技リハーサル大会の確実なる成功を目的として、開催地所属団体の支援を行う。2020 アクションプラン：2)-3 b、1)-1 a]

【具体的活動内容】

- ・円滑な大会運営並びに競技運営を支援するため中央競技役員の派遣を行う。
- ・国体運営方針に則り、現地主催団体と調整協議を実施する。
- ・安全・安心な競技会とするため、参加艇及び運営艇の安全対策を推進する。
- ・一般の認知・関心の向上を図るため「見える国体・見せる国体」を推進する。
- ・「海を汚さない」美化啓蒙活動並びに会場美化活動を推進する。
- ・大会実施を機に開催地にセーリングスポーツの普及を推進する。
- ・競技普及のため少年種目の中学3年生の参加について推進する。

事業計画 2

【事業名：国体開催準備支援事業】

【事業の狙い】

・今後予定の国体セーリング競技会の確実なる成功を目的として、開催予定地所属団体の支援を行う。
「2020 アクションプラン：2)-3 b、1)-1 a]

【具体的活動内容】

- ・大会の確実なる成功・円滑な大会運営の調整を図るため、研修会を開催する。
- ・国体準備運営方針に則り、現地主催団体と調整協議を実施する。
- ・日本スポーツ協会の依頼に基づき、中央競技団体として国体開催予定地の正規視察及び国体開催について指導・助言を行う。
- ・国体開催地正規視察を終えた開催予定地の大会準備を支援する。
- ・開催予定地の行政関係者及びセーリング関係者合同の研修会を開催する。

事業計画 3

【事業名：国体開催関連事業】

【事業の狙い】

- ・国体競技会の円滑な大会運営を目的とした関連事業を行う。

【具体的活動内容】

- ・県名・県番号の販売斡旋を行う。
- ・国体ウインドサーフィン級の年度登録及び管理を行う。

オリンピック強化委員会（委員長：齋藤 渉）

1. 2020 東京オリンピックにおいてメダル獲得を含む十分な成果を実現させることを目指し、組織的な強化体制を構築し、効率的・集中的な強化活動を行う。
この目的のため、代表選手をワールドカップ、種目別ワールド、種目別ヨーロッパ選手権等 5～7 大会に派遣する。国内では、東京オリンピック事前合宿などを実施する。
2. 次世代アスリートの発掘・育成・強化について、各関係団体と連携し、中・長期的な観点から競技力向上を図る。特にメダルポテンシャルアスリート（世界選手権 15 位以内の成績を収められる選手）になり得る選手に重点を置いた強化活動を推進する。
この目的のため、次世代アスリートをユースワールド、種目別ユースワールドなど国際大会に 10 回程度派遣する。国内では、水域練習会、派遣前強化合宿、トライアル合宿、コーチ派遣等、50～60 回の事業を実施する。
3. 強化活動に関連するステークホルダー（連盟内の委員会、クラス協会、企業、スポンサー、外部団体等）と主体的に連携した取り組みを行い、強化環境作りを推進する。
4. フィジカル面の強化、メンタル、気象データ分析、パフォーマンス評価など、競技成績に関係する各分野に対して積極的な取り組みを行い、情報を選手・コーチと共有し成績向上に直結するようサポートする。
5. ルールに関する知識、審問対応力の向上について、専門スタッフの指導により重点的に取り組む。
6. コンプライアンス・危機管理・ドーピングコントロールなどの情報を選手・コーチと共有し、社会的責任の啓蒙と安全な強化活動の実施に務める。
7. 取材依頼、広報活動、スポンサーからの協力要請等に対して積極的に協力し、日本におけるセーリング競技の認知度を高める。特に東京オリンピック対応として、広報委員会と連携しながら、代表選手のメディア対応を効果的に進めて、セーリング競技が魅力的なスポーツとして取り上げられる

ように協力する。

ジュニアユースアカデミー委員会（委員長：中村公俊）

事業計画 1

【事業名：ジュニアユースセーリング・シーマンシップアカデミー】

【事業の狙い】

・ジュニアユースセイラーの育成を目的として、シーマンシップの啓発を図る。

【具体的活動内容】

- ・歴代オリンピック及びNT経験者ならびにNTコーチを対象にアカデミーコーチバンクに登録する。
- ・アカデミー教本を作成し、事業参加者に配布する。
- ・事業参加団体を募り、アカデミーコーチを派遣する。
- ・普及指導委員会と連携して、公認コーチ研修会を開催する。

キールボート強化委員会（委員長：金子純代）

キールボートの普及・活性化・強化をテーマに次の事業への支援を行なう。

1. JSAF へ届くキールボート系海外招待レースへの出場チーム選考、キールボートナショナルチーム選考・支援及び代表チーム強化の環境構築
2. セーリングパーク構想に向けた環境の開拓、推進、提案活動の実践
3. キールボートワンデザインクラスの活性化に繋がる協力・支援活動
4. 大学対抗&U25 マッチレース選手権 2020 開催に向けての支援協力活動
5. ユニバーシアードセーリング選手権 2020 の日本代表チーム選考・派遣及び支援
6. 伊藤園女子キールボートレース運営サポート
7. イタリアで行われるチームレースへの日本代表チーム選考・派遣及び支援

オリンピック・パラリンピック準備委員会（委員長：河野博文）

事業計画 1

【事業名：ワールドカップファイナル並びにオリンピックの成功】

【事業の狙い】

・準備委員会発足以来目標としてきた両大会における日の丸セーラーズの活躍と万全の競技運営を目的として、オリ強への支援と国際的に通用する人材の確保・育成をはかる。

【具体的活動内容】

- ・オリ強からの要請に基づき、日の丸セーラーズを対象にした選手強化に対する支援を東京オリンピックの開催を目途に実施する。
- ・組織委員会・レース委員会と協力し、両国際大会に向け、経験を積んだレースオフィシャルズやボランティアを確保・育成し、セーリングスポーツに関わる国際人を一人でも多く養成する。

- ・2024年オリンピックを見据え、次代を担うユース世代の支援を行うほか、外洋キールボートメンバーとも積極的に協働を図る。

事業計画2

【事業名：オリンピック準備委員会の解散と新たな委員会の設立】

【事業の狙い】

- ・2020東京オリンピックの準備を目的として設立された当委員会が残すであろういくつかのレガシーを基に新たな委員会の設立を模索する。

【具体的活動内容】

- ・オリンピック準備委員会はその活動を年内をめどに終了するものとする。
- ・過去5年間ご支援いただいた日の丸セーラーズ協賛企業を対象に、今後いかにJSAFとの関係を継続させることができるか総代理店の大広と共にオリンピック開催迄を目途に検討・実施する。
- ・方向としては、JSAF会員に主眼を置く現在の広報委員会とは別に、メディアやSNSを活用しセーリングファン、セーリングサポーターに向けた新たな広報の在り方を追求する委員会を準備委員会に代わるものとして検討したい。

事業計画3

【日の丸セーラーズ報奨金】

- ・前年度より継続

【外洋艇推進グループ】

外洋常任委員会（委員長：馬場益弘）

事業計画1

【事業名：加盟団体との関係強化事業】

【事業の狙い】

- ・外洋加盟団体との関係強化を目的として、団体長会議の開催による連携強化をはかる。

【具体的活動内容】

- ・外洋加盟団体長会議を年2回開催目途に実施する。（9月、翌1月）
- ・外洋常任委員会を開催する。（年6回程度）
- ・外洋艇の技術系部門の強化を図るため、外洋専門委員会合同会議を支援する。

事業計画2

【事業名：海外組織との連携強化事業】

【事業の狙い】

- ・オリンピック種目となったオフショアレースへの参加を有利に進めるため、海外組織及び関係者との連携強化をはかる。

【具体的活動内容】

- ・国際会議への参加人員を派遣する。
- ・IRC、ORC等の総会に人員を派遣する。
- ・国際委員会と協力し、情報の収集に努力する。

事業計画 3

【事業名：オフショアレース支援と世界選手権派遣事業】

【事業の狙い】

- ・世界選手権、次期オリンピックを見据え、国内の長距離オフショアレースの一層の活性化をはかると共に、世界選手権への派遣を支援する。

【具体的活動内容】

- ・JSAF との共同主催でもあるパールレース及び沖縄-東海ヨットレースを支援し、世界で戦える選手を育成する。
- ・本年開催される世界選手権に選手を派遣するため、団結して努力する。

・その他事業計画

(各委員会固有または定例の計画について記載ください。)

【事業名：統括業務の充実】

【事業の狙い】

- ・外洋艇の登録実態を整理し、今後の艇登録件数の向上に繋げる。

【具体的活動内容】

- ・会員登録システムとリンクする艇登録システムを充実させ、利便性の向上をはかる。そのため改良が必要なら実施する。

【事業名：安全確保推進事業】

【事業の狙い】

- ・外洋艇のレースに関し、レース中の事故対策をはかる。

【具体的活動内容】

- ・レース中の安全確保に関しては、自己責任が原則だが、主催者においてもその責任において参加者に対して安全指導等を行っている。一方、万が一の場合に対応するため、JSAF が代表して主催者保険に加入し、万全を期し

外洋計測委員会 （委員長：八木達郎）

事業計画 1

【事業名：国際レーティングルールの普及】

【事業の狙い】

- ・ワールドセーリング公認の国際外洋レーティングルールの普及を薦め、国内フリートの充実、発展をはかる。

【具体的活動内容】

- ・委員会会議開催により、情報共有とポリシーの確認。
- ・外洋加盟団体、レース主催者、オーナー等との情報共有と啓蒙。
- ・委員会は（IRC, ORC 合同、もしくは別で）2回の会議を予定し、最新のルール翻訳（解釈）、次年度に向けての資料等の最終確認作業、翌年の活動について事業計画、予算案等の打ち合わせを行う。
- ・ルール使用やレース運営等の温度差をなくし、より普遍的な共通認識を持つ為に主催者の要請に基づ

きメンバーの派遣（選手権レースにおけるテクニカルコミティの派遣やデュアルスコアリング実施に際する協力等）。

事業計画 2

【事業名：MNA としての、国際レーティングルールの運用】

【事業の狙い】

- ・国内で行われる外洋ヨットレースの公平、公正なレーティングルールの使用を目的として、国内フリートのレース運用への便宜をはかる。

【具体的活動内容】

- ・国際レーティングルールの事務局として、海外との窓口業務を行なう。
- ・現在 IRC, ORC のそれぞれのHP を一つに統括して経費削減を目指し、外洋艇向けのホームページを 2021 年度初めまでに作成する事を検討する。現状 IRC ではバナー広告 8 社での運用を行っている。
- ・計測機材の維持管理及びメンテナンスを行う。
- ・IRC 5 トン重量計新規購入予定、ORC 新規機材購入予定
- ・外洋艇のレーティング証書の申込書(Web) を 12 月末までに作成し配布する。
- ・要請により、計測員を派遣して精度の高い証書の発行をはかる。
- ・計測値、及び申告値は国内のテクニカルコミティによって精査を行う。
- ・証書の発行。

事業計画 3

【事業名：国際レーティングルール会議への参加】

【事業の狙い】

- ・MNA の一員として国際レーティングの規則変更等に積極的な関与をはかる。

【具体的活動内容】

- ・10 月と 11 月に開催される国際会議にメンバーを派遣する。
- ・国際会議の報告書を 12 月末までに作成し配布する。

事業計画 4

【事業名：計測セミナー】

【事業の狙い】

- ・レースオフィシャルズの資格認定を通して、メジャーのスキル維持・向上の為の情報展開、計測の質の維持・向上を図る。

【具体的活動内容】

- ・メジャーを対象にした認定セミナーを実施する（2021 年 2 月に IRC 3 会場 ORC 2 会場を予定）。2 年毎に開催。
- ・ODC 計測委員会とも連携して、ERS セミナーの開催も併設する。4 年毎に開催。

事業計画 5

【事業名：JSAF 会議への参加】

【事業の狙い】

- ・ルール変更の解説とその周知徹底。
- ・ルール使用やレース運営等の温度差をなくし、より普遍的な共通認識を持つ為の連携。

- ・参加者からの質問、要望や意見の聞き取りを行い今後に反映させる。

【具体的活動内容】

- ・各加盟団体を対象にした外洋合同会議に5名のメンバー派遣を行う。2020年2月開催場所は未定
- ・資料等は12月末までにPDFにしてHPから参加者が取り込める体制をつくる。参加者だけでなくその他会員の為にも誰もが取り込めるようにする。
- ・ERS等外洋艇に関する記載も増えて来ている現状での、翻訳・資料制作への協力

その他事業計画

【事業名：外洋加盟団体及び特別加盟団体との協力】

- ・外洋加盟団体及び特別加盟団体と協力して、各地のレースへの国際及び国内レーティングルールの運用を促進し、外洋艇のレース活動を活発化する。

外洋安全委員会（委員長：大坪明）

事業計画1

【事業名：外洋特別規定（Offshore Special Regulations）普及】

【事業の狙い】

- ・外洋特別規定（Offshore Special Regulations）普及を目的として、規定の正しい理解と運用をはかる。

【具体的活動内容】

- ①World SailingのOffshore Special Regulationsの翻訳と国内規定策定
 - ・全文翻訳本の販売。・翻訳一部は無償公開（モノハルカテゴリー3,4、付則など）
- ②外洋特別規定解説講習会の実施および講師派遣
- ③SNSなどを利用した内容解説。
- ④Offshore Special Regulationsに基づくWorld Sailing認定トレーニングの認可審査

事業計画2

【事業名：安全航行啓蒙】

【事業の狙い】

- ・航行時の事故防止および被害拡大防止を目的として、会員の安全航行に対する知識と意識の向上をはかる。

【具体的活動内容】

- ①安全週間の実施
 - ・春と秋の2回、安全週間を設け安全航行に対する意識の向上を図る。
- ②安全講習会への講師派遣
- ③安全航行に関わる諸法令の改正のための関係官庁に対する働きかけ
 - ・無線機器の使用認可や通信費用の低減などの働きかけ、など。
- ④船舶安全航行に関わる情報収集および発進
 - ・海難防止強調運動委員活動（海難防止協会）

- ・日本小型船舶検査機構評議員活動、など

⑤事故報告書（外洋艇関係）の収集/分析、事故予防に関する情報発信

事業計画 3

【事業名：無線局の普及】

【事業の狙い】

・JSAF の資産である海岸局チャンネルを利用し安全の確保やレース利用による便益性恒常を目的として、船舶局開局および海岸局加入数の増加をはかる。

【具体的活動内容】

① 無線海岸局の管理

- ・海岸局（VHF 71ch・74ch）の開設・継続・廃局認可審査
- ・JSAF 登録艇以外の船舶局（VHF 71ch・74ch）の加入認可審査

②無線船舶局の普及

- ・無線免許取得の補助（民間業者とタイアップして免許取得講習会費用割引）

事業計画 4

【事業名：外洋合同委員会会議】

【事業の狙い】

・外洋レースの全国均一化を目的とし、レース主催者（加盟団体）が適切なレース運営が行えるようにレース主催者（加盟団体）のスキルアップを図る。

【具体的活動内容】

・レース運営に必要な情報、規則や規定の理解や改訂ポイントをレース主催者（加盟団体）がワンストップで情報収集可能な会議をレース運営に関係する委員会と合同で開催する。

アメリカズカップ委員会 （委員長：植松眞）

事業計画 1

【事業名：出場斡旋・調整事業】

【事業の狙い】

- ・アメリカズカップに向けた環境整備と醸成。

【具体的活動内容】

- ・現環境下における参加可能性の探求と次回の大会に向けた情報収集及び周辺環境の調査を実施する。

ジャパンカップ委員会 （委員長：植松眞）

事業計画 1

【事業名：ジャパンカップ開催・運営指針再検討事業】

【事業の狙い】

- ・オフショアレースが世界選手権、オリンピック種目となることを受け、対応でき得る環境を整備する。

【具体的活動内容】

- ・オリンピックでの採用はパリ大会以降なので、当面は世界選手権を目標とした選手育成に繋がるジャパンカップのあり方を長期構想で調査、研究していく。

【障害者セーリング普及強化推進グループ】

障害者セーリング推進委員会（委員長：高間信行）

1. パラリンピックにおけるセーリング競技の復活

2028 パラリンピックでのセーリング競技の復活に繋げるため以下の活動を行う。

- (1) 2020 年に行われるワールドセーリングの PDP（パラリンピック・デベロプメント・プログラム）への受講（選手・コーチ）の参加を加盟団体、特別加盟団体へ促す。
- (2) 2021 年パラセーリング国際大会の日本開催を実現するために関係する JSAF 加盟・特別加盟団体、行政を含めた関係団体と連携を図り準備を進める。
- (3) 5 普及・強化推進拠点と連携を図りパラ艇種の全国大会を開催する。
- (4) 2020 年度に開催される国際大会への選手・コーチの派遣選出方法を模索する。

2. 障がい者セーリングの普及推進

障がい者セーリング普及推進のために以下の活動を行う。

- (1) JSAF の 5 普及・強化推進拠点（候補地）をコアに各水域に対する障がい者セーリング推進委員会への参画要請を行い、底辺を拓ける事に努める。
- (2) JSAF ホームページを活用し障がい者セーリングへの理解を高めるために JSAF 加盟・特別加盟団体・委員会、会員、外部への広報活動を行う。
- (3) 障がい者セーリングの発展振興、安全のため、障がい者セーリング行事運営について JSAF 加盟・特別加盟団体に向け研修を行う。
- (4) 全国障がい者スポーツ大会にセーリング競技の採用を実現するために開催地加盟団体等と連携を取り進める。スタートとして東京都障害者セーリング連盟と連携し東京都障害者スポーツ大会にオープン競技として若洲ヨット訓練所でセーリング競技を実現するよう働きかける。同時に全国に展開できるシステムを検討する。
- (5) スペシャルオリンピックス、デフリンピックへの対象者の拡大検討を進めるうえで、基本的情報の収集と方針の策定案を検討する。
- (6) 計画中の 2021 パラ国際大会（別府）への参画を JSAF 加盟団体の関係団体に働きかけ、引続き行われる 2021 ワールドマスターズ関西大会のパラセーリング種目への選手派遣を進める。

3. 障がい者セーリングにおける強化推進

国際大会・パラリンピックでの順位向上を目指し以下のことを行う。

- (1) 強化種目・強化フリートを指定する。
- (2) 国際大会での順位向上を、関係する JSAF 加盟・特別加盟団体と協議し進める。
- (3) 計画中の 2021 パラ国際大会（別府）での入賞を目指し各拠点での選手育成を行う。